

三重県私費海外留学生体験記
溝口 和彦さん（イギリス）
ウォーリック大学大学院
マーケティングストラテジー修士課程

2016年12月更新

・専攻していた科目の学習内容、成績について

私はウォーリック大学院でマーケティング & ストラテジーを専攻していました。日本とは異なる視点で経営に関する勉強がしたいという思いから、ビジネス教育において評価の高いウォーリックビジネススクールに進学することを決めました。コース名にある通り、授業は何をどのように物を売るかというマーケティングと、もう少し広い視野で組織を分析したりするストラテジーという2つの要素にフォーカスしていました。私は当初、マーケティングにより重きを置き研究したいと考えていましたが、学ぶうちに後者に強く興味を持ち、選択授業ではストラテジーに関するものを履修しました。例えば経営心理学はその一つです。この授業では人の心がどのように戦略の立案と実行に影響し、どうすればそれを抑えることができるのかが議論されました。このほかにも様々な授業を履修し、試験やエッセイの提出、また修士論文の提出などを経て、最終的には Merit という成績で卒業することができました。

・卒業後の進路について(進路、インターンシップ、日本または海外での就職活動等)

卒業後には日本でコンサルタントとして就職します。私の場合、留学中に勉強する一方で就職活動を行い、海外大学に所属する日本人学生や日本語を話す外国人学生を対象としたキャリアフェアに参加することで内定を頂きました。このイベントは日本やイギリス、アメリカ、オーストラリアなどでも開かれており、海外大学で学ぶ日本人にとってはメジャーな就職活動の場となっているようです。このほかにも、海外留学生向けの就活エージェントや、企業へ直接申し込むなど、様々な方法があります。また就職活動をするにあたって大学のキャリア支援サービスも役に立ちました。私の大学では英語の履歴書添削や面接練習、キャリアフェアでどのように振る舞えば良いかを学ぶ講座を受けることができました。さらには定期的に企業のリクルーターやOB が講演に来るので、私にはどのようなスキルが必要かを理解することができました。しかし、最も大切なことは、使う方法や就職場所に関わらず、海外での就職活動中は様々な人とコミュニケーションをしていくことだと感じました。学業との両立は大変ですが、アンテナを高くはりながら、一人で抱え込まずに友人や先輩、先生やプロフェッショナルなどと話をし、何をすれば目標達成できるのかをはっきりさせることでスムーズな就職活動が可能になると思います。

・今後留学を考えている人へのアドバイス、心構えとして伝えたいこと。

留学という言葉は、いつでも私たちにとても素敵なイメージを与えますが、実際は辛いことや苦しいことが沢山あります。論文を読むのには時間がかかるし、大変な努力を用意したテストでひどい点を取ってしまったたり、自分の英語が議論についていけなかったために相手に目をそらされたりと、日本で暮らしていた時には簡単なことが急に難しくなります。

しかし、だからこそ、この環境で学ぶことにはただ知識をつけるということ以上の価値がありました。もしあなたが留学したいと本気で思うのなら、今すぐに準備を始めて実現させるべきです。確かに、語学力や費用、そして不安な気持ちなど、乗り越えるべき壁があると思います。ですが、真剣な人の周囲にはサポートしてくれる人たちが必ずいるはずですよ。その人たちが一緒だということを忘れずに、新しい一歩を世界へ踏み出しましょう。

2016年5月更新

・専攻している科目の学習状況について

秋学期は今後の基礎となるリサーチの方法や、近年のマーケティングや経営戦略、そして経営環境に関する必修科目を受講しました。講義は三時間ほどですが、論文や教科書などの記事を事前に読むことが求められており、これらのリーディングリストを消化するための予復習に時間が掛かりました。なかにはグループワークやプレゼンテーションが課せられた科目もありました。異なるバックグラウンドを持つ仲間と目標を達成するために団結するのは、ディスカッションの際に折り合いがつかず苦労したことを含め、本と向き合う学習とは異なる驚きや発見があります。成績評価は 3000 ワードのエッセイやグループプロジェクト、筆記試験によるものでしたが、この学期は 4 科目のうち 3 科目が主に試験による評価であることに加え、準備期間が他コースよりも 1 ヶ月ほど短かったため、年末は試験勉強のために非常に忙しくなりました。春学期には、より発展した内容を選択科目によって履修するので、気を引き締めて取り組んでいきたいと思っています。

・ボランティアやアルバイトなど、どのような学業以外の活動をしていますか。

大学にはソサイエティと呼ばれるサークル活動があります。私はジャパンソサイエティを通じてラングエーজেクスチェンジプログラムと呼ばれる言語学習者ためのボランティアに参加しています。これは言語を学びたい学生を、その言語を話す学生に紹介するというもので、私はブルガリア人の学生に日本語を教えています。教えるといっても方法は自由なので、小説を読んだり、YouTube で日本に関する動画を観たりして、ネイティブらしい表現を紹介しています。また彼は大学で日本語の講義も受けているので、その補習などを行っています。キャンパスには日本語の学習者と比べてネイティブの話者が不足しているらしく、彼のクラスメートと出会った時には「本当に日本人ですか？」と流暢な日本語で聞かれたほどです。この機会を利用し、より多くの学生に日本語に興味を持ってもらえるように活動を続けていきたいと思っています。

・三重県や日本の文化や習慣等について紹介する機会がありますか。

ボランティアの項で触れた通り、大学にはジャパンソサイエティといった日本に興味のある学生が集まる機会があります。ソサイエティ活動では日本の映画を上映したり、寿司を握ったり、お茶を点てたりといった講座を開いて日本人以外の学生が日本の文化を体験できるようになっています。もちろん日本の文化を紹介するのはこのような活動のときだけではありません。クラスメートの中でも日本を知らない人はいませんし、留学している日本人が珍しいので文化やおすすめの観光地などについて様々な人からよく聞かれます。また私は料理が好きなので、日本食で友人達を饗することもありますが、しかし、三重県に限っ

て言うのなら、残念なことに大阪・京都・奈良に比べて知名度は低く、彼ら好みな観光資源がありながらそれを知らない人も多いので、このような話題が出た時にはぜひ三重県を訪れることを勧めています。

・あなたの留学の目的は何ですか。

私は世界基準の感覚と知識を身につけるために留学します。グローバル化の波はより一層強く押し寄せてきており、日本のどこにいても、どの分野においても、世界規模の競争に巻き込まれる未来がすぐそこにあることを感じます。私が留学するイギリスは最も国際的な国のひとつです。世界中から集まる学生と学問に励み、切磋琢磨し合うことで、知識を得るだけでなく国際的な考え方や身のこなしを覚え、将来の社会に貢献することができると考えて留学を志しました。

・専攻している(する予定の)科目の学習内容について書いてください。

大学では主にマーケティングを専攻します。マーケティングは、顧客のことをよく知ることによって商品をより多く売るための活動のことを広く指します。グローバル化により競争がますます激しくなっている一方で、一昔前のように大量に安く商品を作れば誰もが買うという時代から人々が企業に求める役割は変化し、社会的責任を果たすことが重要になりました。変化も激しい複雑な環境で、顧客と信頼関係を築くためにどのようなアプローチをするのが良いかは企業にとって大きな課題です。このような課題について学習するのが私の専攻です。

・留学大学に入学するにあたり、どのような手続きやテストが必要でしたか。

入学試験は書類選考にて行われ、パーソナルステイトメントと呼ばれる志望動機書、推薦状を2~3枚、語学試験の IELTS スコアシート、大学の成績証明書、履歴書を要求されました。合格には条件付き合格 (Conditional offer) と無条件合格 (Unconditional offer) があり、私の場合は IELTS のスコアが入学要件を満たしていなかったため、期日までに受験し直してスコアを上げました。無条件合格が出た後は大学が発行する CAS を使い、UK 学生ビザ (Tier4) を取得しました。

・留学校を決めるにあたって利用した資料や機関はありますか。

世界大学ランキングや、イギリス国内大学ランキングの表を見て大まかな大学の情報を集めた後、留学経験のある友人達に聞くなどして詳しい事情を知り、出願する大学を決めました。私は参加しませんでした。イギリスにある大学の現地スタッフが日本まで出向き、直接相談できるイベントなどもあるそうなので、そのような機会を利用するのも良いかもしれません。

・現在の留学校に決めた一番の理由は何ですか。

静かで広大なキャンパスと、充実した施設学習に向けた環境でありながらロンドンやバーミンガムといった大きな都市へのアクセスの良さも気に入っているポイントですが、最も決定的な理由はウォーリック大学とそのビジネススクールの評判の高さです。ウォーリック

大学は国内・世界ランキングともに非常に高い評価を得ており、中でもビジネススクールの評判は良く、専攻科目をしっかり学びたいと考えている私にあった大学だと考えました。

・昨年度、あなたが関わった国際交流・貢献活動について教えてください(ボランティア活動など)。

大学の制度でイギリスに一年ほど留学していました。前半のおよそ6ヶ月はそれぞれ異なる国から来た4人でフラットをシェアし、トイレやシャワー、キッチンも共同で過ごすなど、開いた態度で濃密な交流ができました。また、日本の文化が好きだという人も少なくなく、日本人留学生が珍しいこともあってか、様々な国から来た人とお互いの国の文化を教え合う機会にも恵まれ、知見が広がりました。